

precision designed & engineered high fidelity record playing equipment and accessories

MICRO
DD-8

《取扱説明書》

レコードプレーヤー、トーンアーム、カートリッジなどを手がけて以来、専門メーカーとしての深い信頼をいただいております。ここにダイレクトドライブ型プレーヤーDD-8をおとどけする機会に、日頃のご愛顧に深く感謝いたします。

DD-8はプレーヤー一筋に打ち込んだ多年の経験と基本設計が、十分に生かされております。

この説明書をよくお読みになり、正しく組み立て、正しい操作を行なって、レコードの溝にきざまれた、すべての音を引き出してみてください。

マイクロ 精機株式会社

● 各部の名称

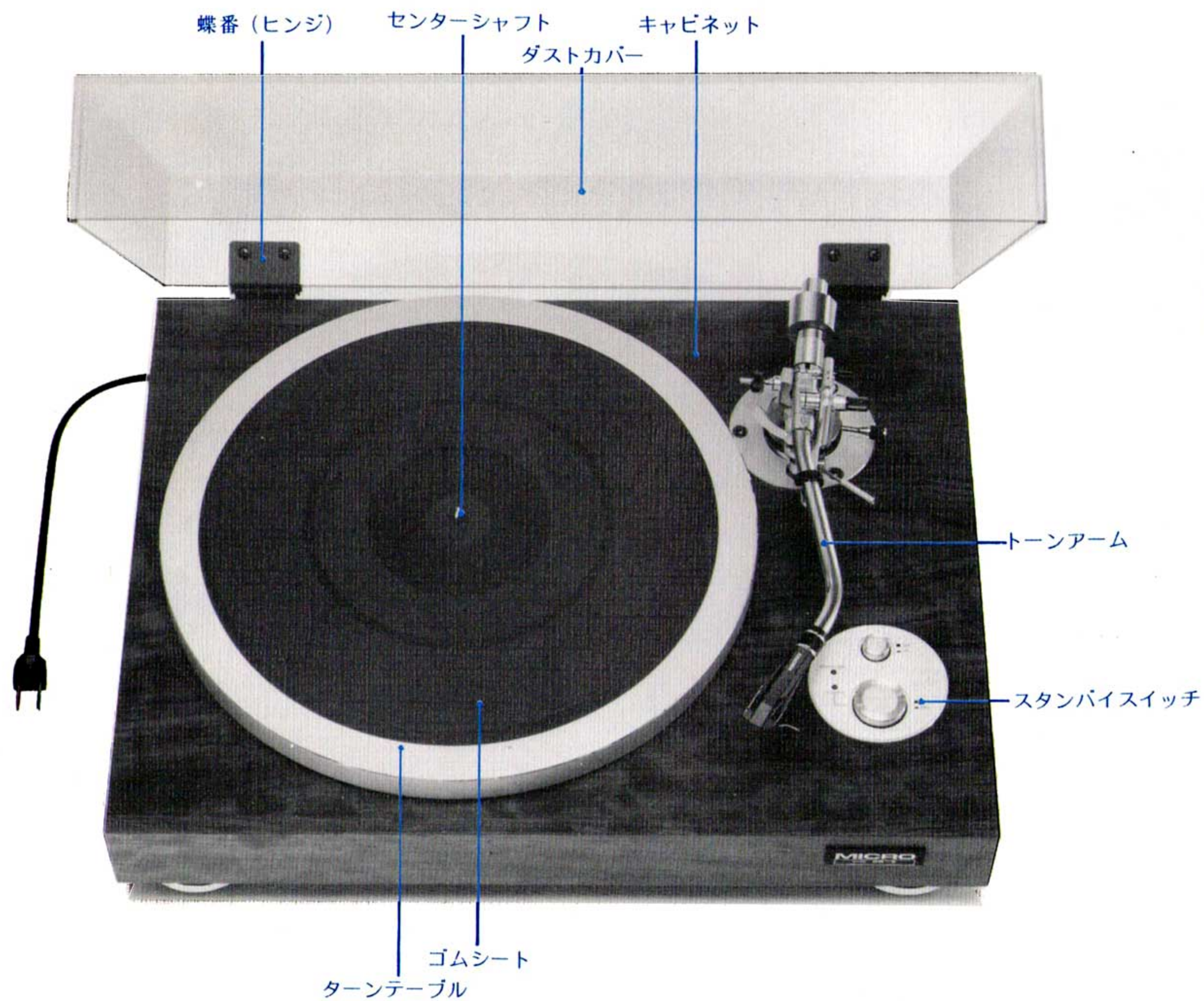


写真1

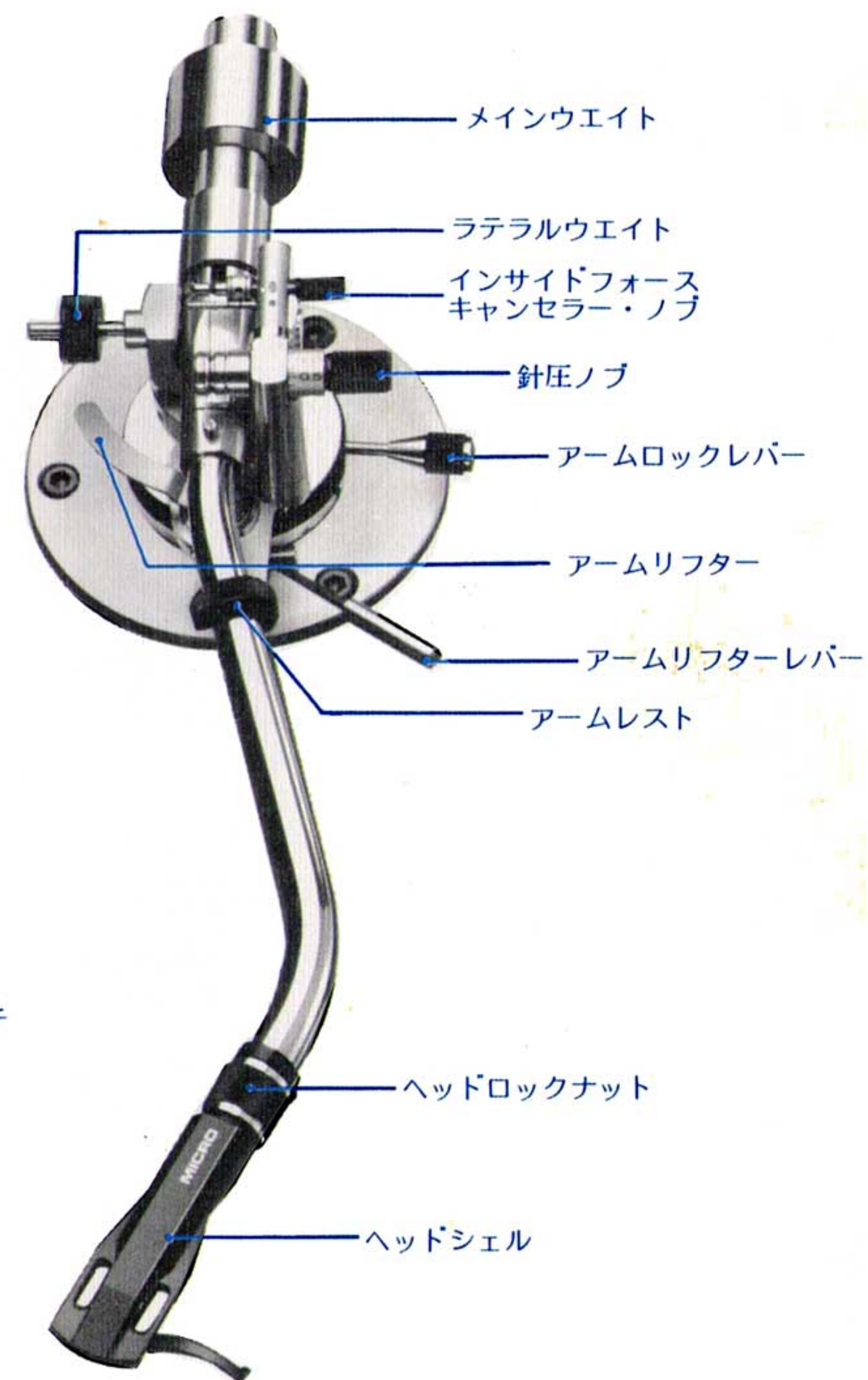


写真2

● 付属品

組立てる前に付属品をお確かめ下さい。

- ターンテーブル
- ゴムシート
- ダストカバー
- ヘッドシェル
- メインウエイト
- 出力コード
- パーツパック
 - ① ドライバー
 - ② ヘッドシェル
 - ③ 針ブラシ
 - ④ オーバーハングゲージ
 - ⑤ 45回転用アダプター
 - ⑥ サブウエイト
 - ⑦ ラテラルウエイト(大)、(小)
- 保証書

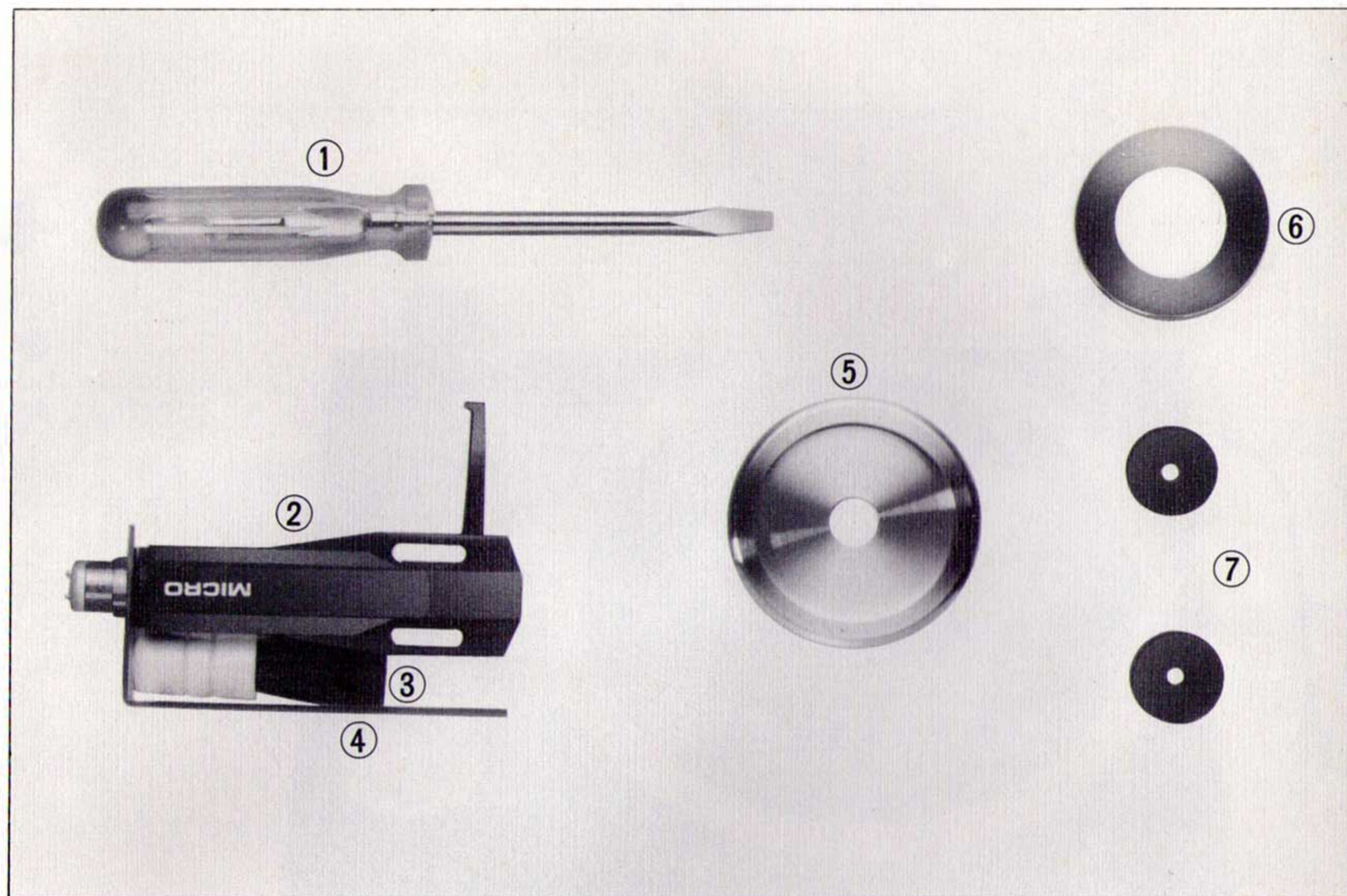


写真 3

● ターンテーブル、トーンアームの組立

● ターンテーブルの組立て

ターンテーブルをセンターシャフトにはめ、ゴムシートをのせます。

注] ターンテーブルをはめずに、モーターを回転させないで下さい。

● カートリッジの取付けと調整方法

1) カートリッジの取付け

DD-8は、カートリッジが付属しておりませんので、付属のヘッドシェルに、ご使用のカートリッジに合った長さのビスで、図1のように取付けます。

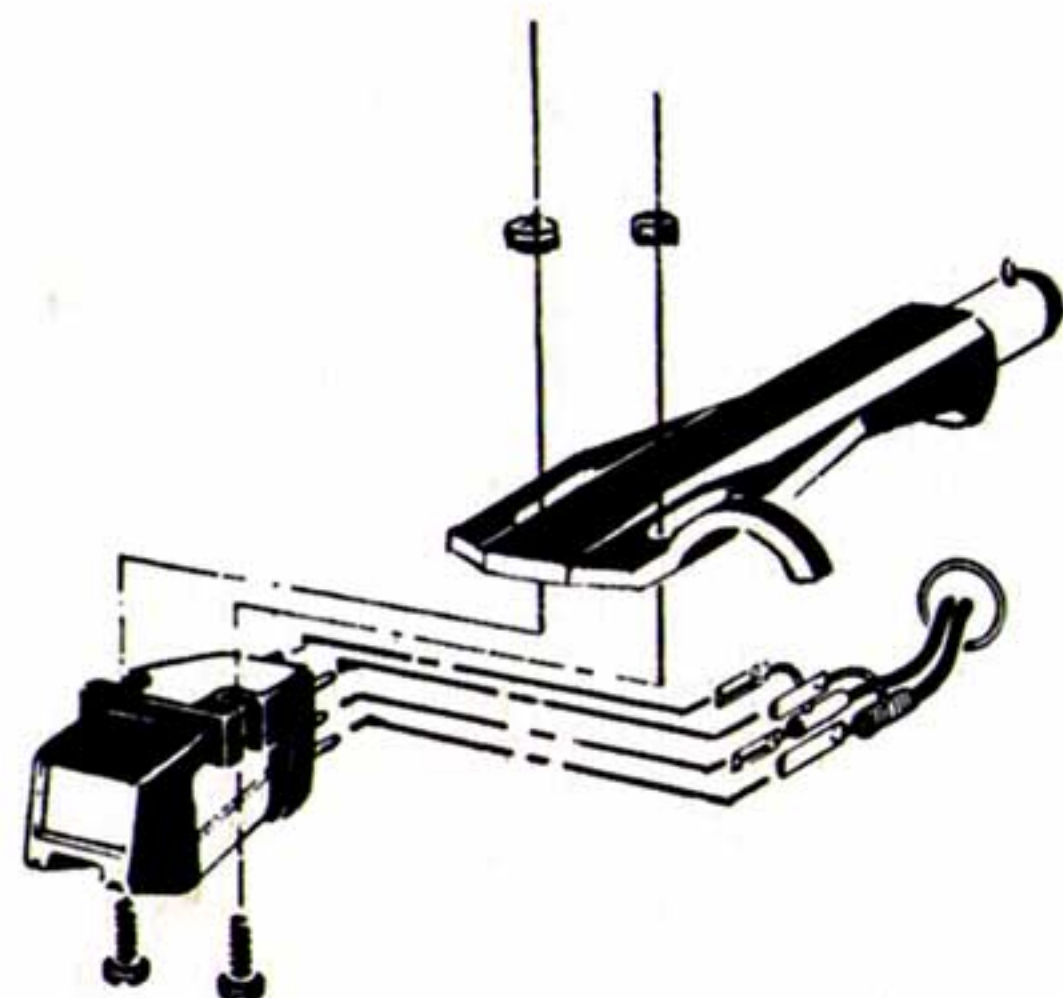


図1

2) カートリッジの配線

ヘッドシェルのリード線を、ピンセットを用いてカートリッジに接続します。誤配線をしますと、音が出なくなったり、ハム音が発生しますので、間違えないようにご注意ください。配線の色別は、下記の通りです。



3) オーバーハングのとりかた

オーバーハングは、ターンテーブルシャフトの中心から針先迄の距離です。DD-8のトーンアームは、オーバーハングが15mmのときトラッキングエラーが最小になるように設計されています。(図2)

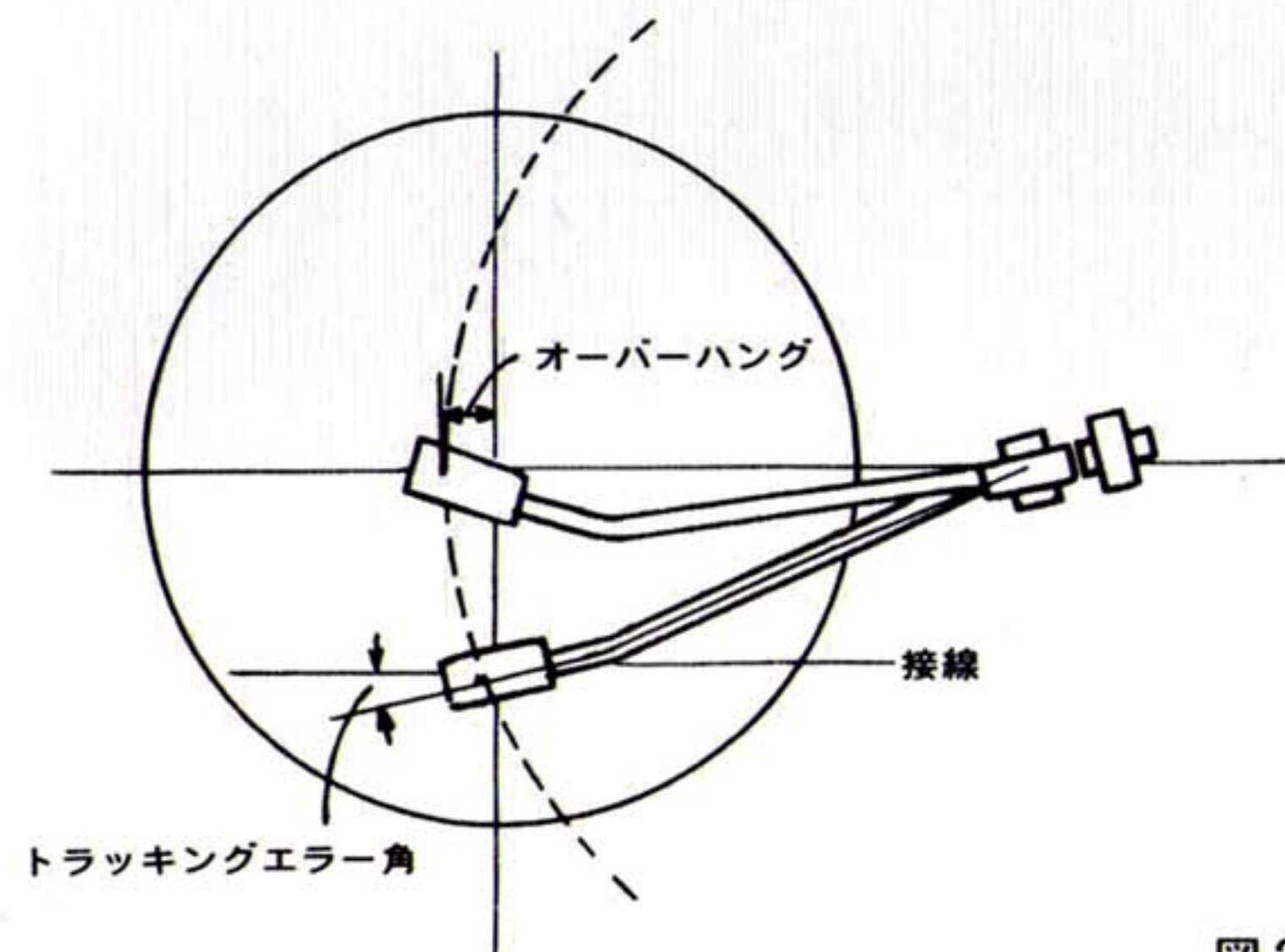


図2

お手持ちのカートリッジをご使用になる場合には、付属のオーバーハングゲージを写真4のようにヘッドシェルにセットし、カートリッジとめビスをゆるめてカートリッジを前後に動かし、ゲージの▼マークに針先を合せます。

他のヘッドシェルに取付けたカートリッジの場合も、上記と同様の方法でオーバーハングをとり、そのままDD-8にセットしてご使用ください。

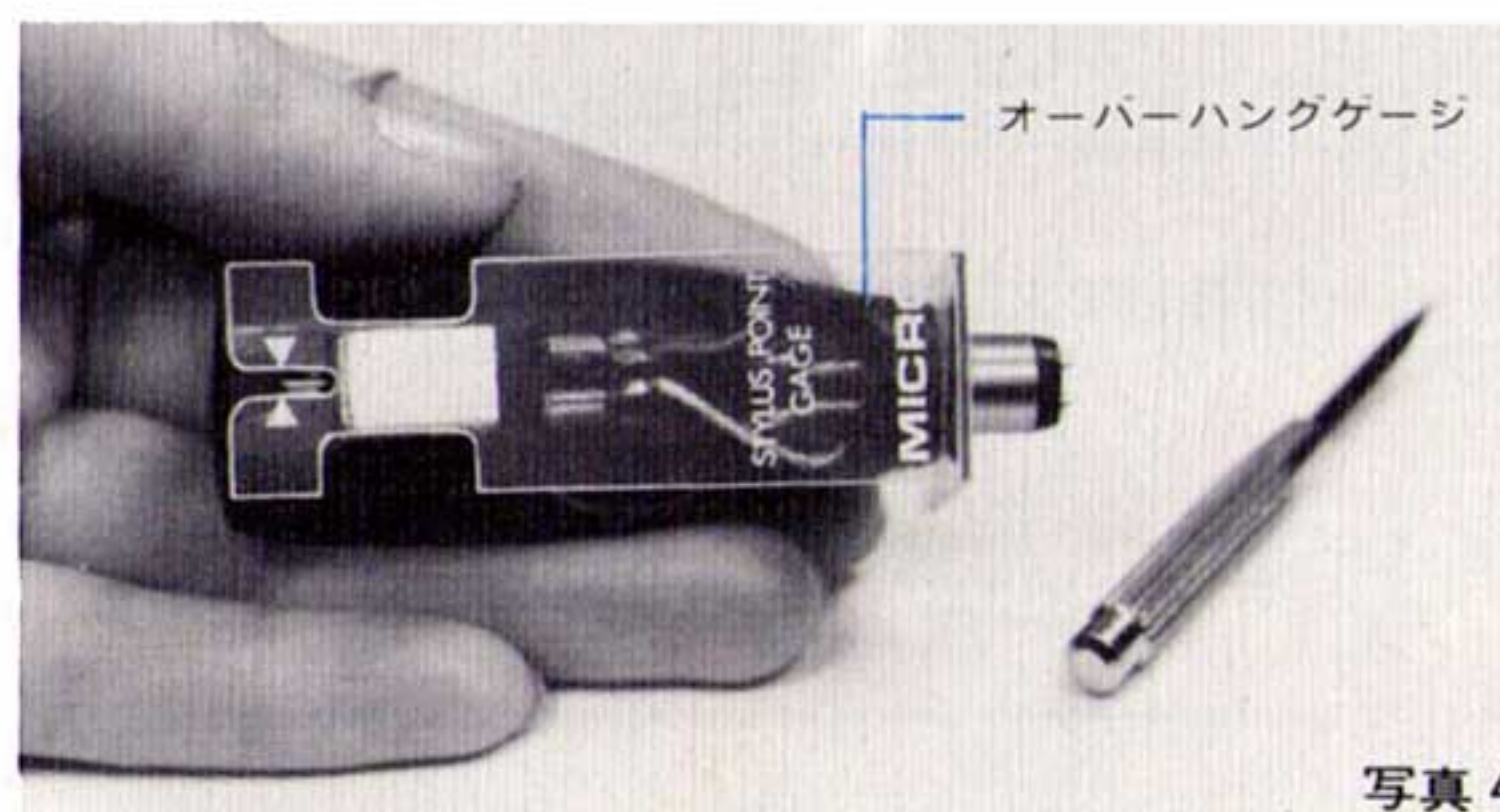


写真4

● トーンアームの組立て

トーンアームをアームレストに固定し、メインウェイトを後部軸に矢印の方向に回転させながら差込みます。(写真5)



写真5

次に、写真6のように、アーム先端よりヘッドシェルを差込み、ロックナットを回し締めつけます。この時アーム回転部に不必要な力を加えないようにご注意ください。

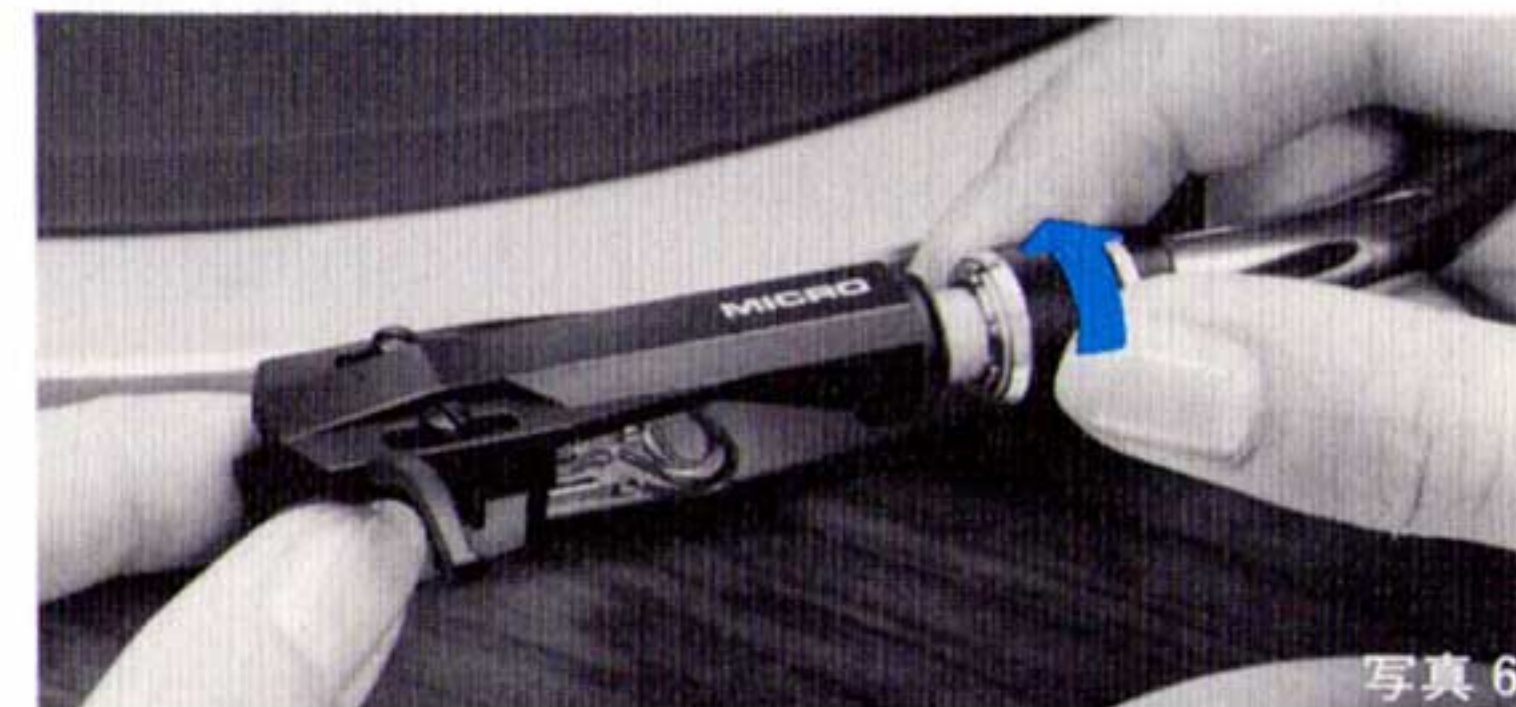
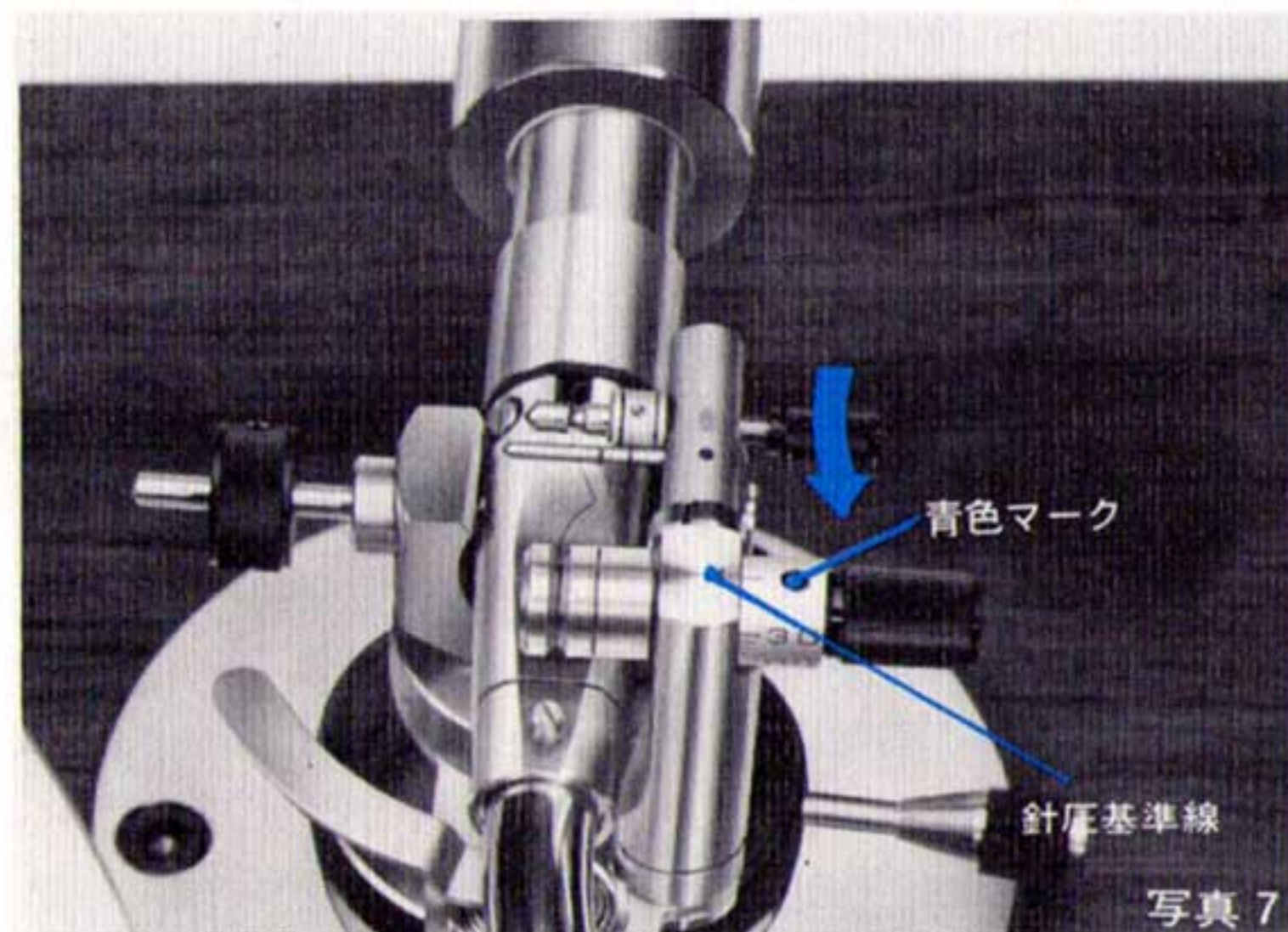


写真6

● トーンアームの調整方法

● 水平バランスのとり方

- ① プッシュ式の電源スイッチを OFF の状態にします。
(■ - OFF、■ - ON)
- ② 針圧ノブの青色の丸いマークを写真7のように針圧基準線に合わせます。(この状態で針圧は「ゼロ」になります)
- ③ インサイドフォースキャンセラー・ノブを矢印方向左に回りきるまで回します。(写真7)



- ④ リフターレバーを写真8のように下げトーンアームをアームレストからはずします。アームレストにはアームを固定するためにロッカーがついていますが、使用前にロッカーを矢印方向にはずしてください。(図3)

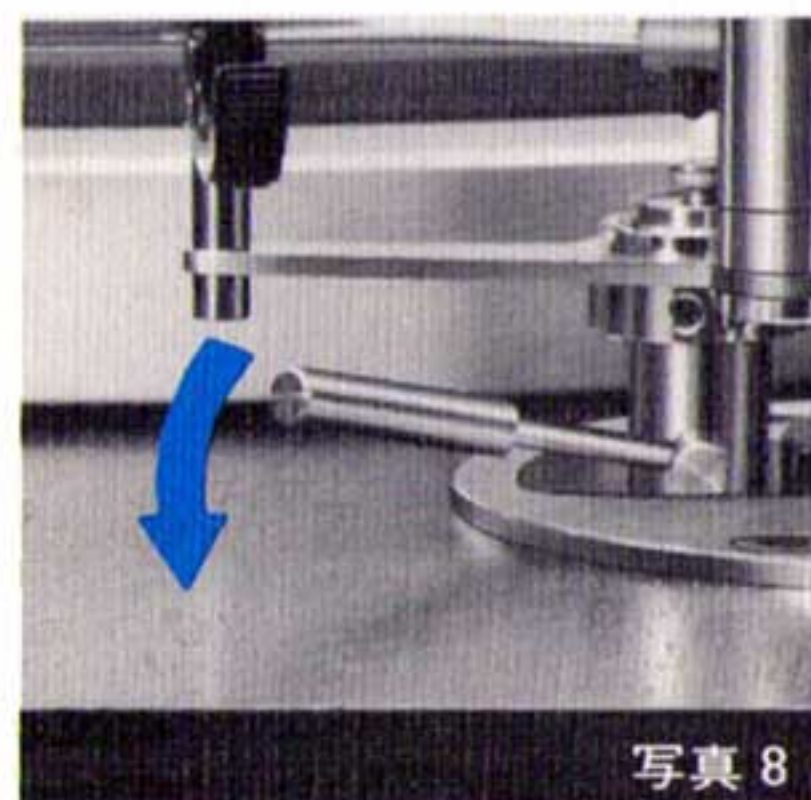


図3

- ⑤ ヘッドシェルとメインウェイトを写真9のように軽く手で支えメインウェイトを回しながら前後に移動させ水平バランスをとります。



写真9

● サブウェイト

DD-8は、交換カートリッジの自重範囲が4～10kgまでです。使用カートリッジの自重が10gを越え水平バランスがとれない場合は付属のサブウェイトをご使用ください。(適合カートリッジ自重範囲9.5～16g)その他、オルトフォンSPU-/GT用サブウェイト(別売)があります。(写真10)

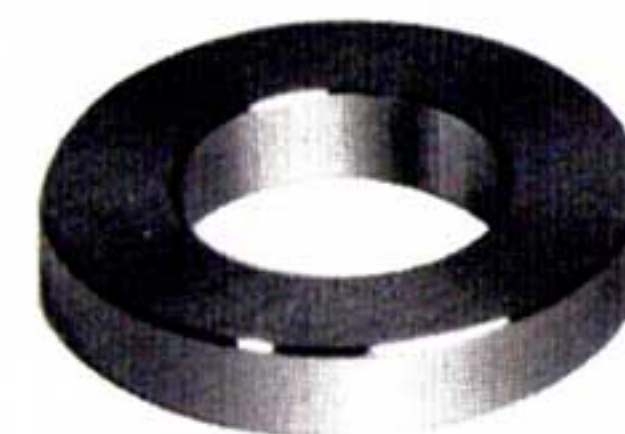


写真10

水平バランスとはトーンアームから手を離して図4のようにカートリッジ側とメインウェイト側の重量が釣り合った状態を指します。

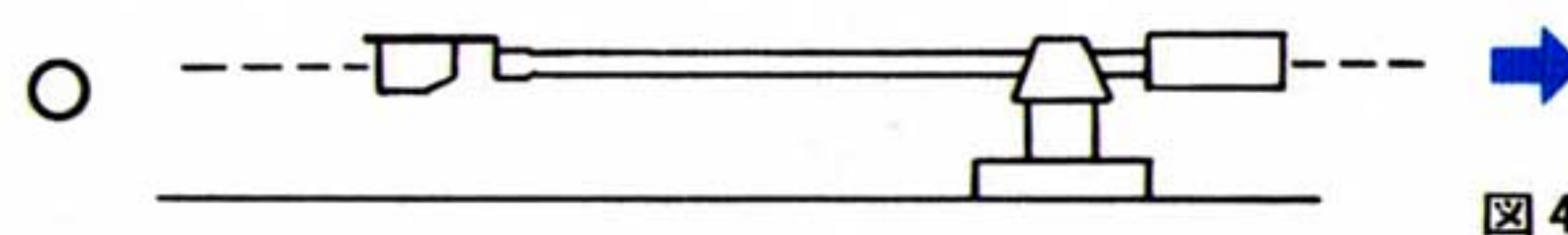


図4

ちょうど釣り合った状態。

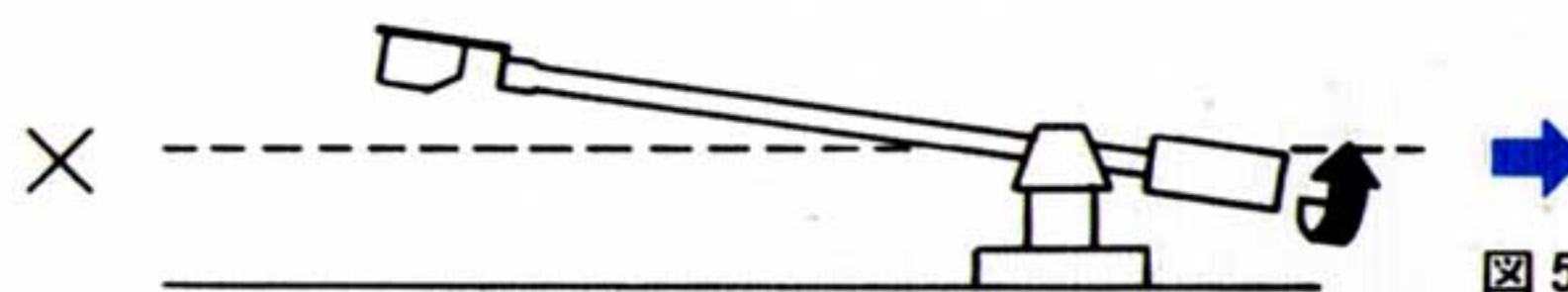


図5

メインウェイト側が重い状態。
メインウェイトを矢印方向に回し図4の状態になるようメインウェイトを前方に移動させます。



図6

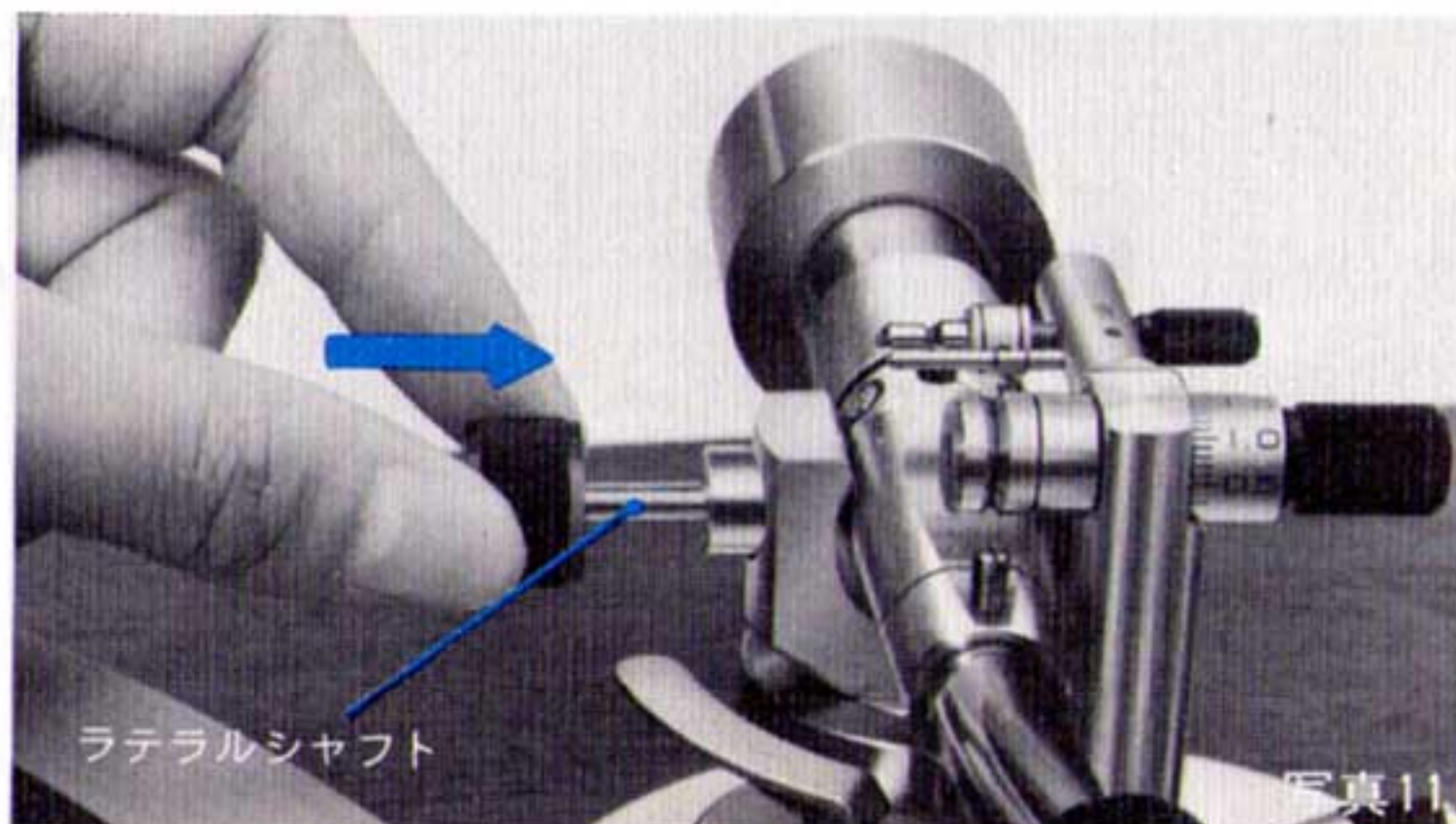
カートリッジ側が重い状態。
メインウェイトを矢印方向に回し、図4の状態になるようメインウェイトを後方に移動させます。

● ラテラルバランスのとり方

ラテラルバランスはプレーヤーが水平に置かれている場合には問題はありませんが、プレーヤーが傾いて設置されている場合にはインサイドフォースと同様に針先に対して横方向の力が働き、針圧が不均等になり歪の原因になりますのでラテラルバランスをとる必要があります。

ラテラルバランスのとり方は次の通り行ってください。

- ①針圧を「0」にします。
- ②ラテラルウェイト④をラテラルシャフトに差し込みます。(写真11)



- ③プレーヤーの後部を持ち上げ、アームが流れる方向にラテラルウェイトをスライドさせ、アームが静止するよう調整します。(写真12)

- I) ラテラルウェイト④を図6のようにラテラルシャフトの先端にセットしてもA方向に流れる場合は④④2コのラテラルウェイトを使用して調整してください。
- II) ラテラルウェイト④を図7のように軸受側にセットしてもB方向に流れる場合はラテラルウェイト④を使用して調整します。



写真12

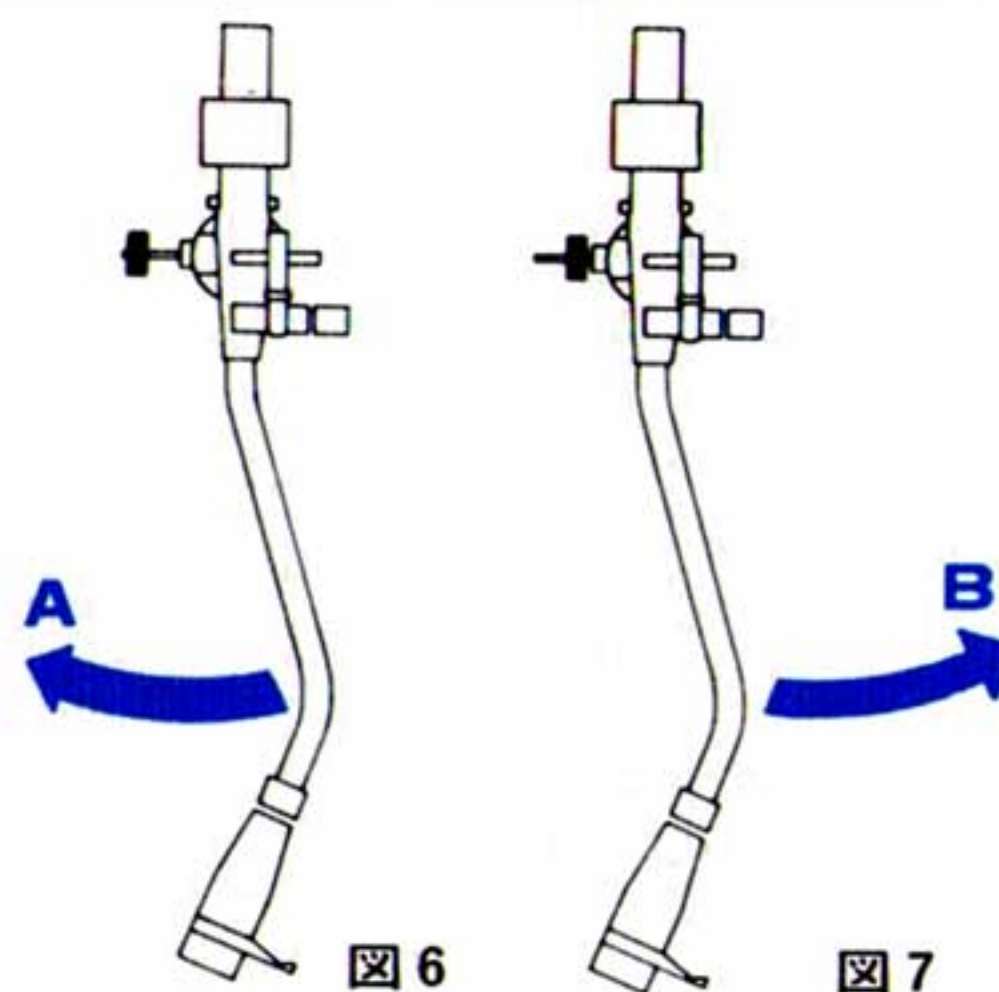


図6

図7

- ④ラテラルウェイトの固定ビスを締めつけ固定します。

● 針圧のかけ方

針圧ノブを矢印方向に回し、使用カートリッジの適正針圧に対応した数値を針圧基準線に合わせます。使用カートリッジの適正針圧が1.5gの場合は、針圧基準線に目盛「1.5」が表示されるまで回します。(この時、針圧印加ワイヤーがインサイドフォースキャンセラーシャフトの溝に入っているかどうか確認してください。)(写真13)

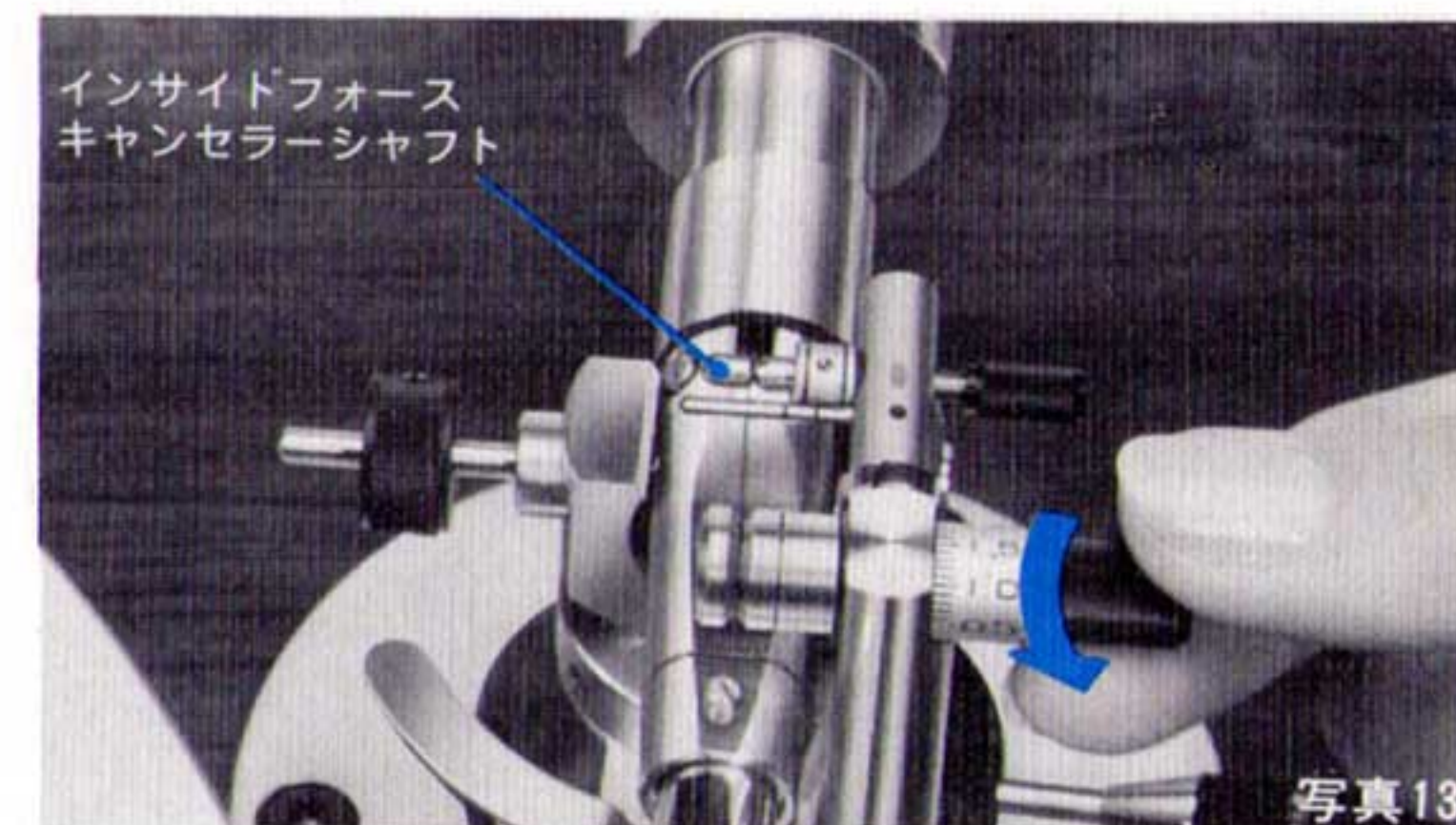


写真13

カートリッジの適正針圧は必ずしも一定ではありません。周りの温度や湿度など使用条件により微妙に変化します。このトーンアームは演奏中でも針圧調整ができますので、聴きながら使用条件に応じた適正針圧を選んでください。

● インサイドフォースキャンセラーのかけ方

DD-8のトーンアームは、使用カートリッジの針先形状に合わせてキャンセル量を設定するようになっています。針先形状がダ円針の場合は、キャンセラーシャフトの赤線とワイヤーガイドに刻まれた赤線とが重なるまで、インサイドフォースキャンセラーのノブを回してください。また、丸針の場合は青線同士が重なるまで回してください。調整後は針圧を変えても再調整の必要はありません。(写真14)

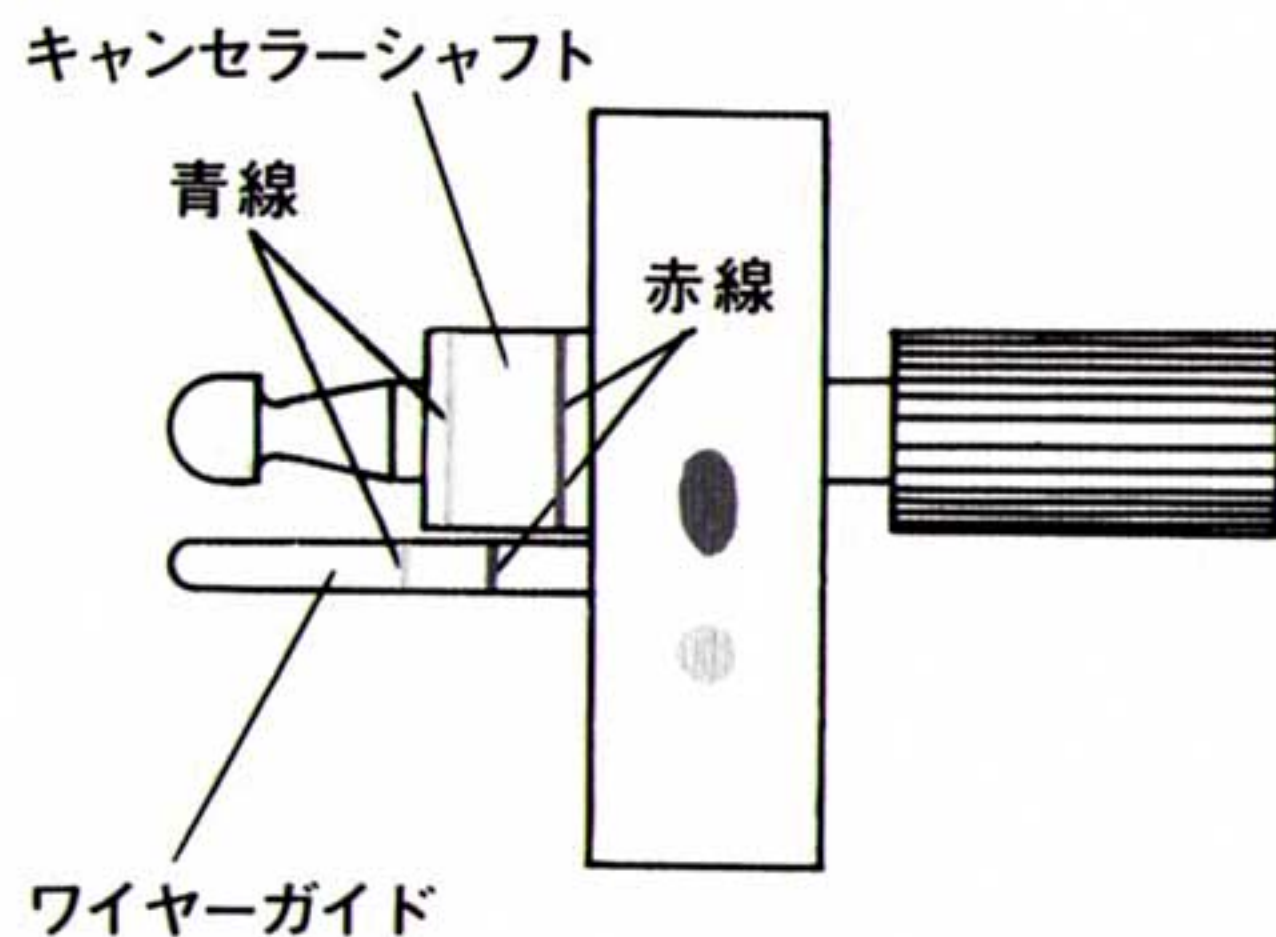
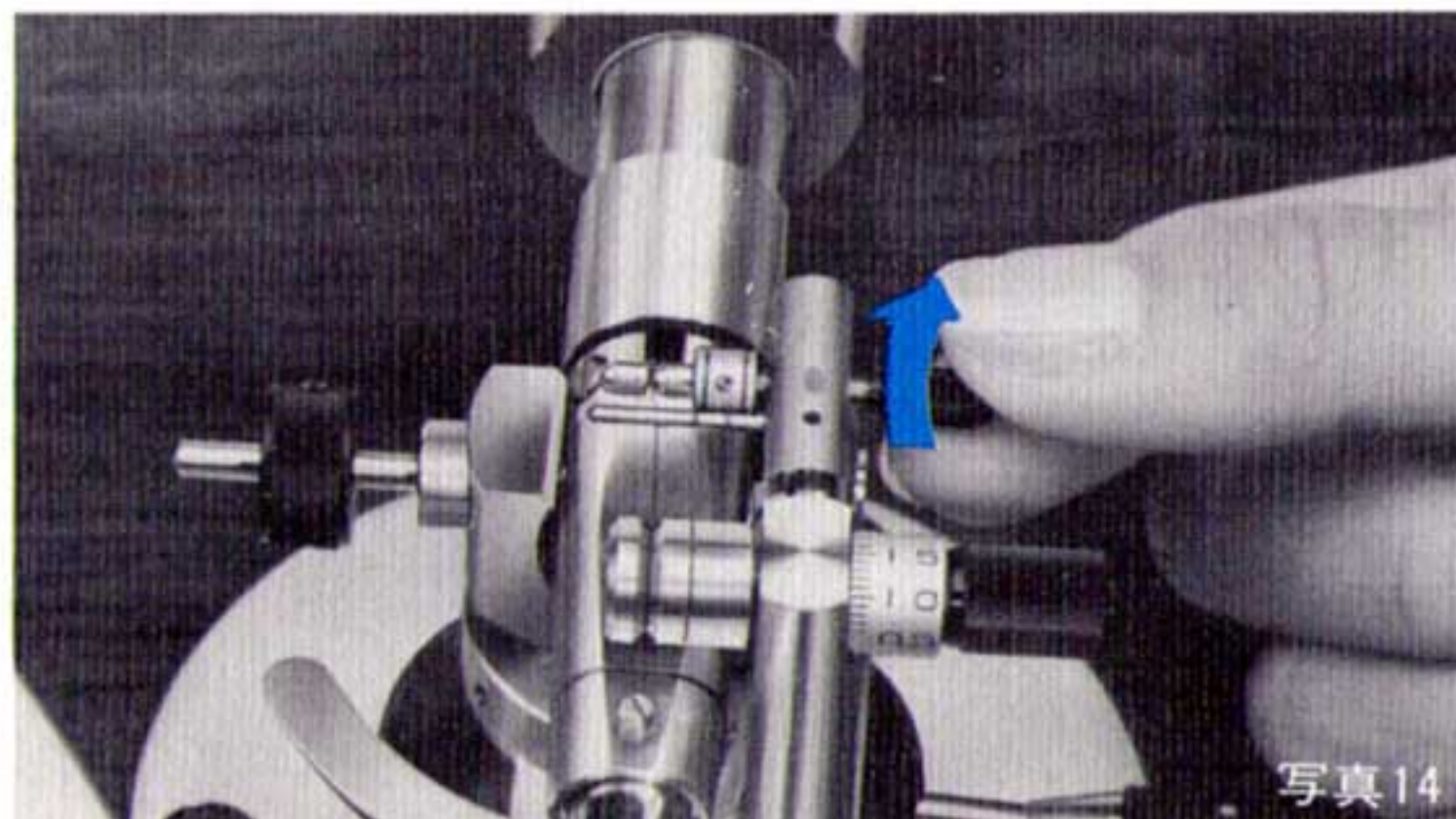


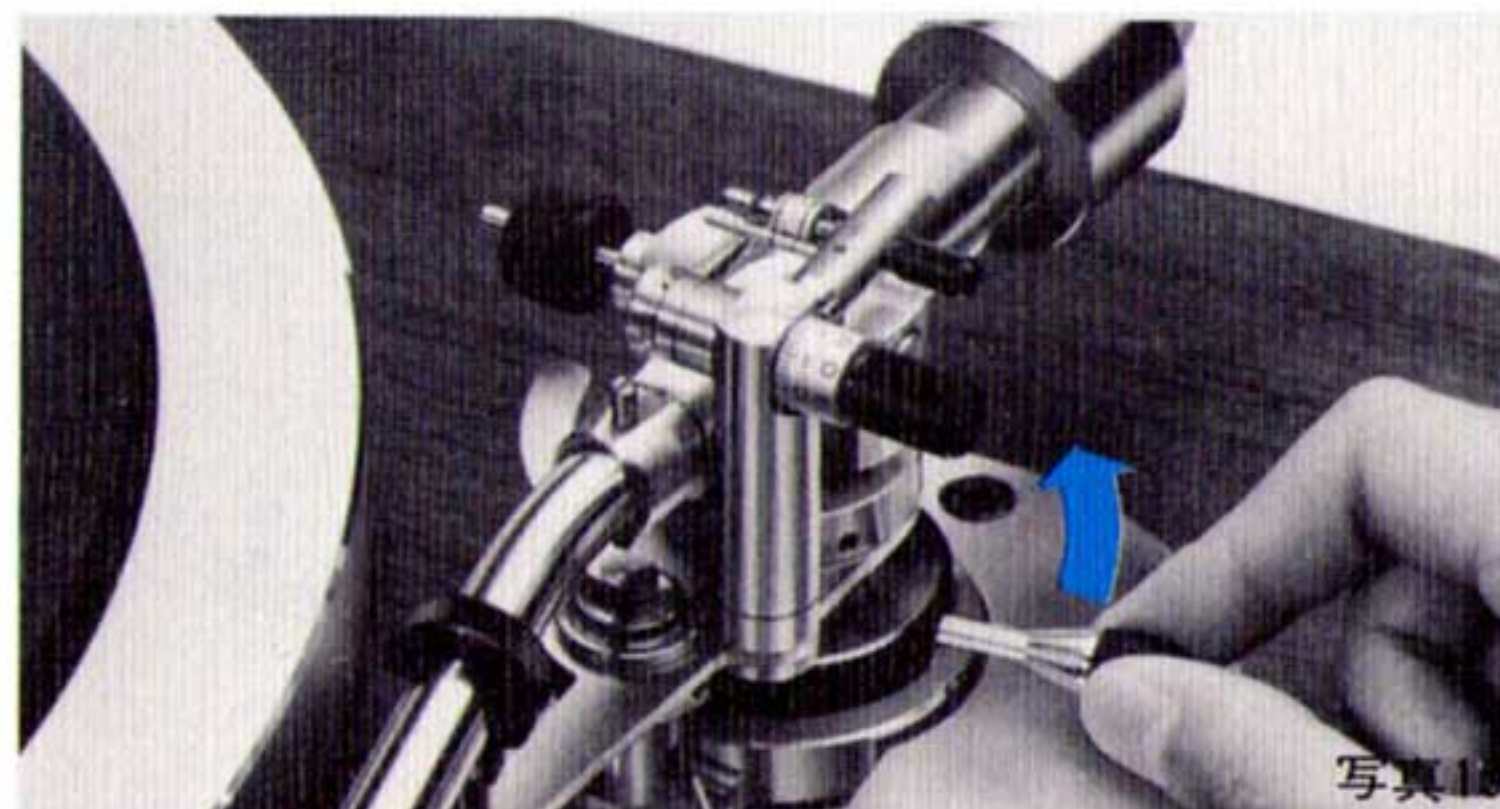
図 8

● トーンアームの高さ調整

ご使用カートリッジの高さに応じてトーンアームがレコード面と平行になるよう高さ調整が必要です。

ターンテーブルにレコードをのせてからトーンアームをレコード面上に持ってゆき、アームリフターを下げます。プレーヤーの右側から見てトーンアームがレコード面と平行になるよう高さ調整をしてください。アームロックレバーを矢印方向に水平に押し出すとバンドロックは解除されます。(写真15)

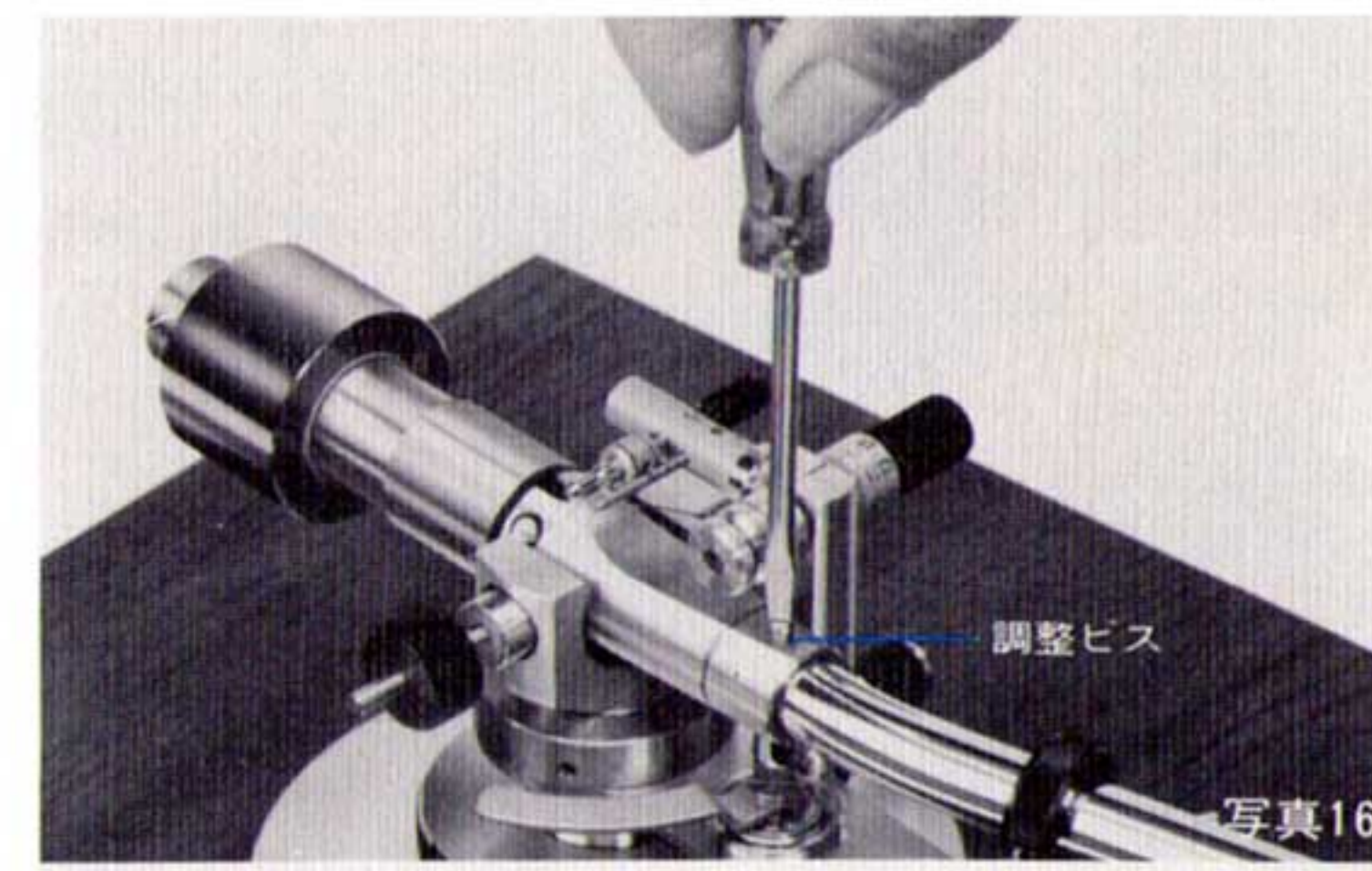
ロックレバーをゆるめるときは、トーンアームをアームレストに収めてから行って下さい。レコードに針先を置いた状態でゆるめると、トーンアームが下った時にカートリッジを破損する恐れがあります。



注] 本プレーヤーに使用のアームは、音質を考慮した全く新しいバンドロック方式による面じめを実施しています。従って今までのネジによる点じめよりもアームシャフトの保持にすぐれ解像力の豊かな再生音が得られています。ロックレバーをゆるめるときは、面じめを解除するため比較的強い力を必要としますが、これは不良、故障ではありません。

● アームリフター動作範囲の調整

リフターレバーを上げトーンアームをレコード盤面上にもっていったときに針先とレコード面との距離が近すぎたり、離れすぎたりする場合は、写真16に示すように調整ビスをドライバーで回して針先とレコード面との距離が1cmぐらい離れるように調整します。



● ヘッドシェルの傾き調整

ヘッドシェルを交換した時、ヘッドシェルに傾きがある場合には、写真17のようにヘッドクランパービスをゆるめて傾きを修正してください。

注] 必要以上にクランパービスをゆるめたり、締めつけたりしないようにご注意ください。



写真17

● ダストカバーの取付と調整

● ダストカバーの取付け方

ダストカバーの金具の凸部をプレーヤー本体の金具の凹部にあてがい矢印の方向に差し込み取付けます。(写真18)

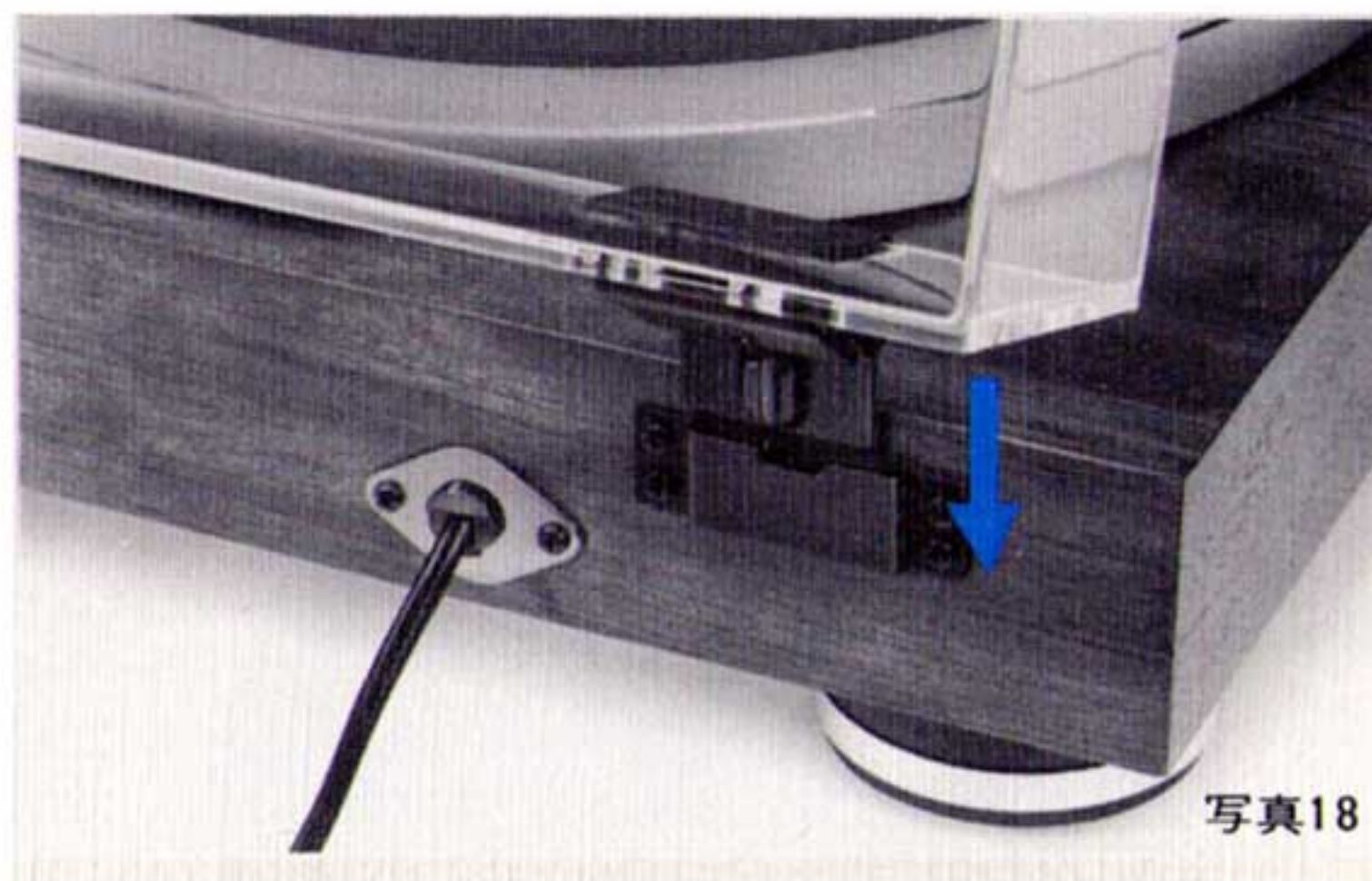


写真18

ダストカバーの開閉角度を調整する場合は調整ネジを写真19のように矢印方向に回して調整して下さい。

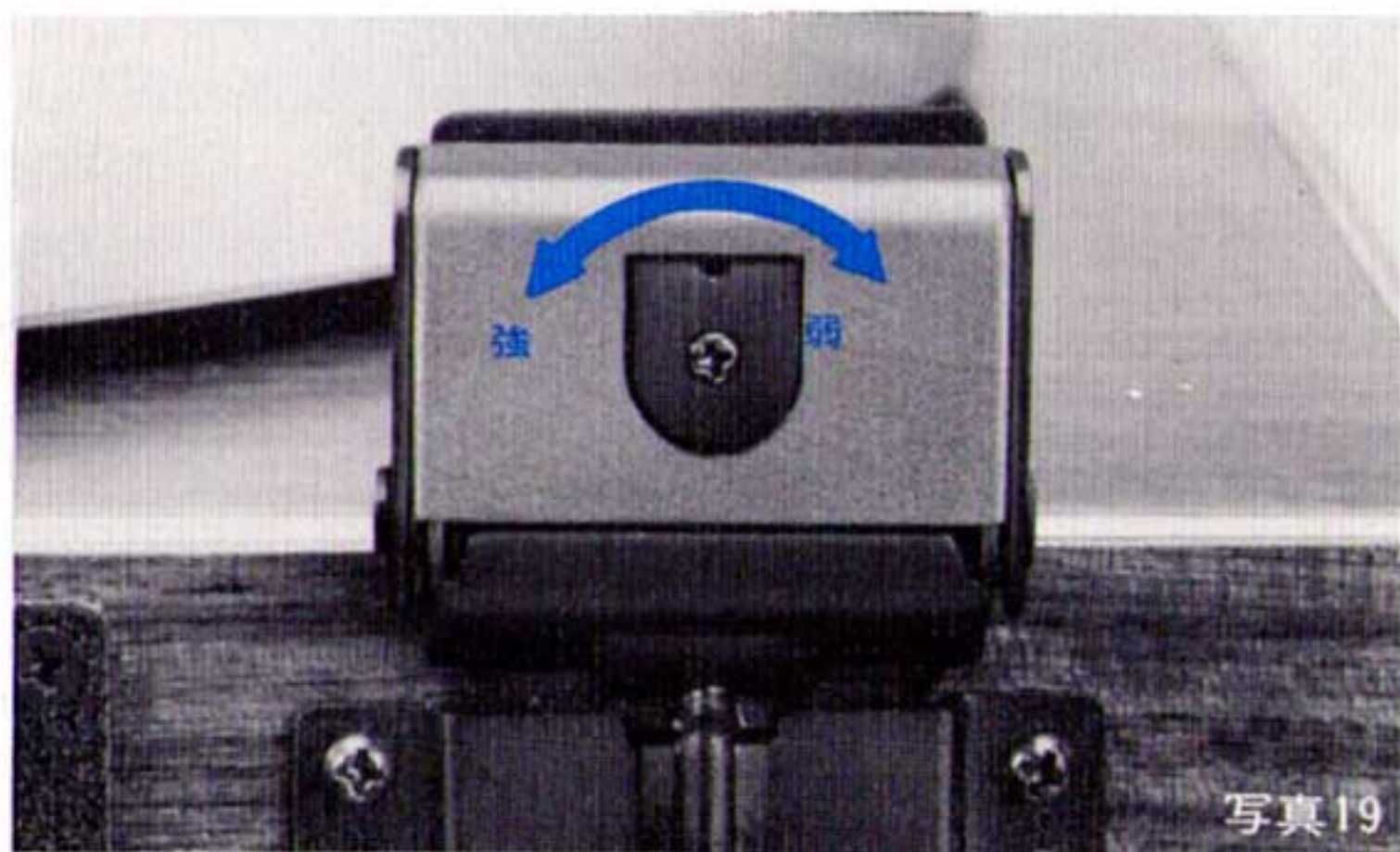


写真19

● アンプ又はレシーバーとの接続

● アンプ又はレシーバーとの接続

トーンアームの出力端子と、アンプ又はレシーバーのPHONO(MAG)、G(アース)端子に下記のように出力コードを接続してください。(図9)

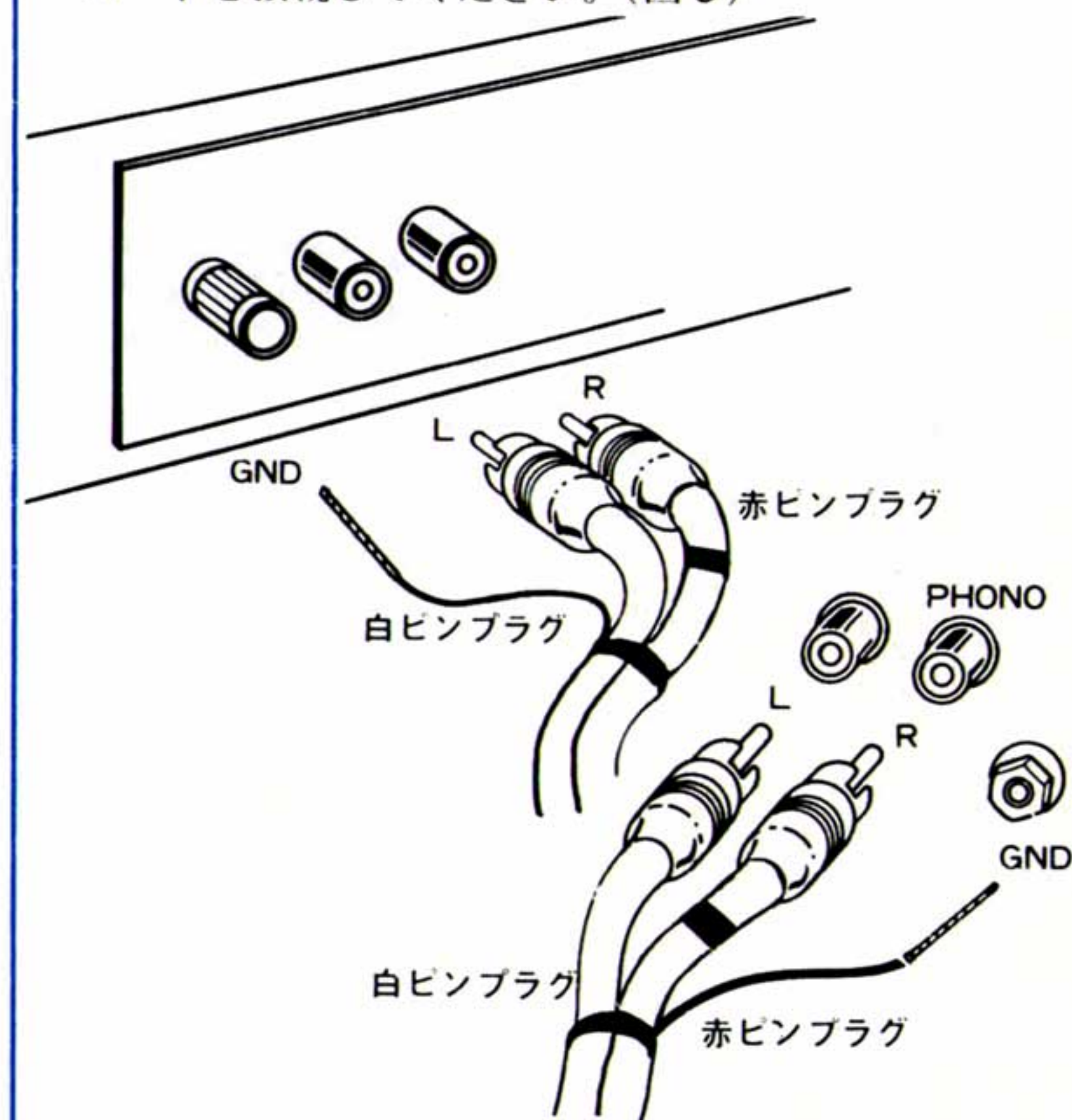
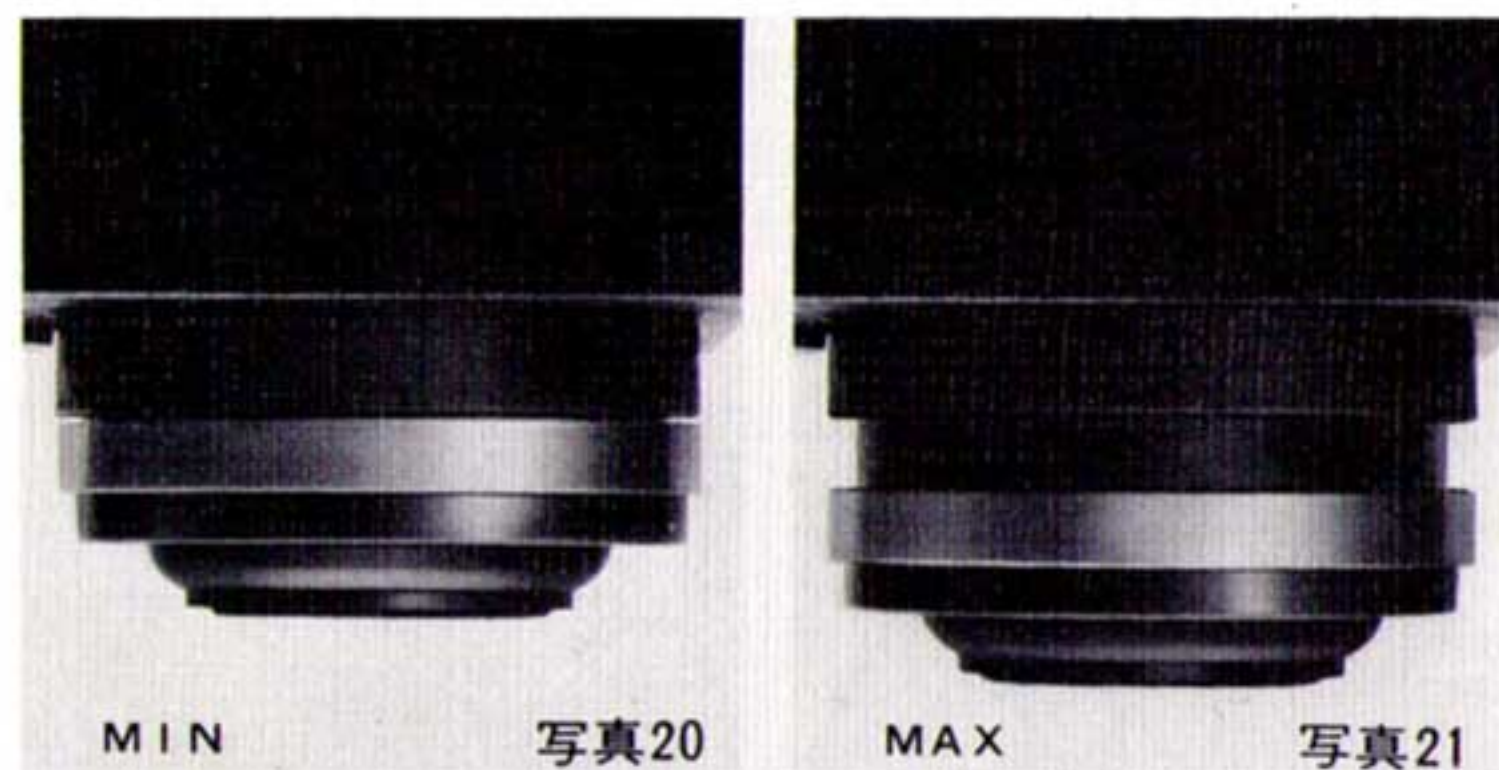


図9

● 使用方法

● ショックアブソーバーの高さ調整

DD-8は、ショックアブソーバーの高さが変更されます。4コの高さを調節し、プレーヤーの水平を維持してください。(写真20、21)



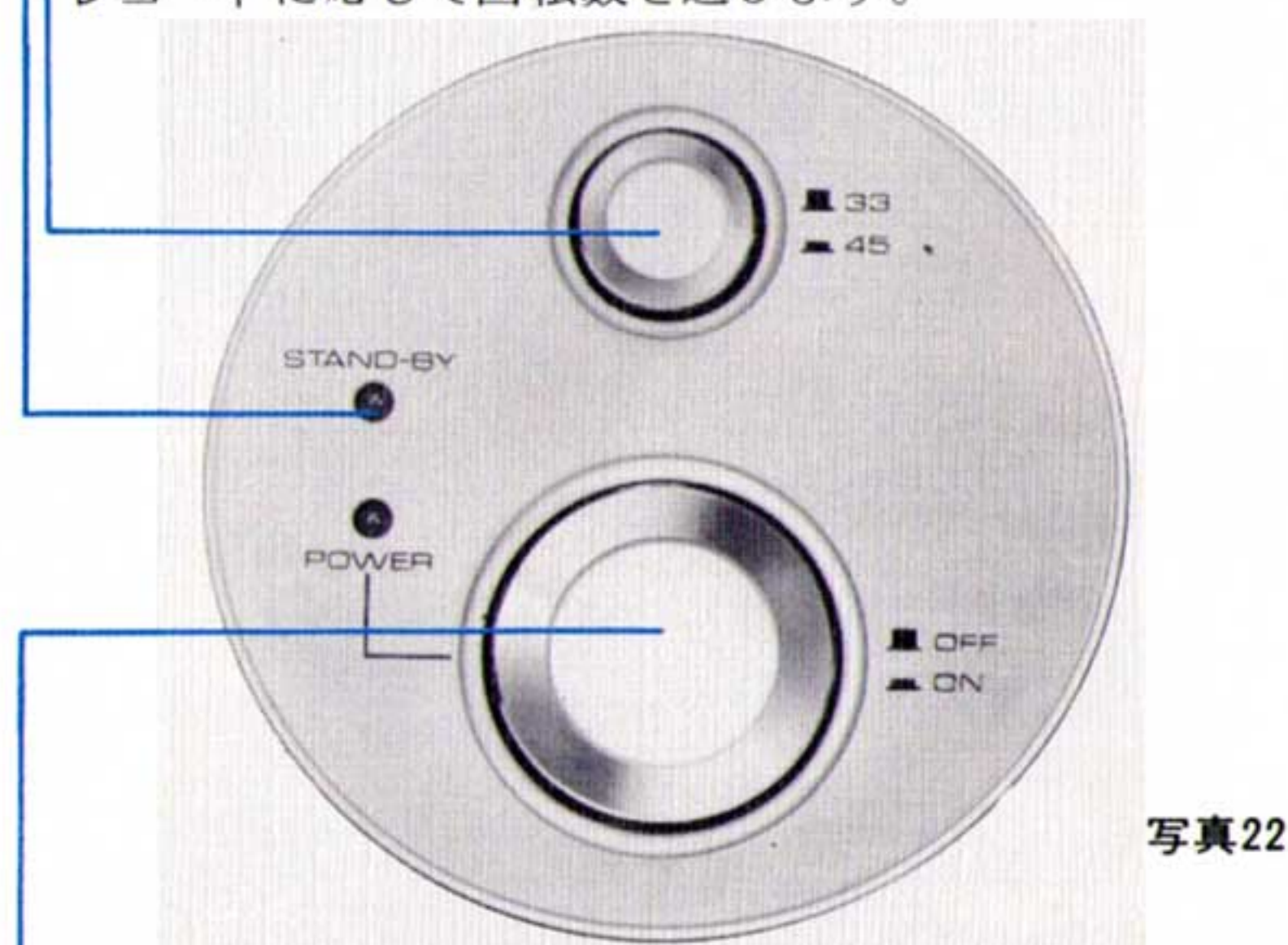
● スタンバイスイッチ

■ スタンバイランプ

ターンテーブルが停止及び規定回転数に達する前の状態ではランプが点灯し、ターンテーブルの回転が規定回転数に達しますとランプは消えます。

■ 速度切換ボタン

レコードに応じて回転数を選びます。



■ 電源ボタン

ボタンを押しますとターンテーブルは回転し始めます。
注] 回転中にターンテーブルを長時間(30sec以上)手で止めないで下さい。保護回路の働きでヒューズが切れることがあります。必ずこのボタンを押してSTOPさせて下さい。

● 演奏方法

- ①レコードをターンテーブルにのせて、電源ボタンをONにします。
- ②速度切換ボタンを押し(■-33、■-45)、レコード盤に応じた回転数を選びます。
- ③リフターレバーを写真23のように上げ、トーンアームをレコード盤面上にもっていきます。

アーム上昇時



- ④リフターレバーを下げますとトーンアームはゆっくりとレコード盤面上に降り演奏しはじめます。(写真24)

アーム下降時



- ⑤演奏が終了しましたら、リフターレバーを上げトーンアームを上昇させます。
- ⑥トーンアームをアームレストに戻し、電源スイッチをOFFにします(電源スイッチOFF後もターンテーブルは慣性でしばらく回り続けますが問題はありません。)

● 取扱上の注意と手入れ

● プレーヤーの設置

- ① プレーヤーをアンプの近くや、トランスを使用している機器に近づけて置きますと、漏洩磁束（フラックス）の影響を受けて、ハムを発生する事があります。
- ② プレーヤーは振動を嫌いますので、スピーカーの正面（音波を直接うける位置）や、スピーカーの上、壁等から離してください。出来るだけ外部からの振動を受けにくい質量の大きいもの、例えばコンクリートブロックなどの上が理想的です。
- ③ プレーヤーは、長時間使用いたしますとモーターの熱で温度が上がりますので、放熱効果の良い場所に置いてください。

- カートリッジの針先にゴミが付着しますと、音が歪んだり、音質が悪化いたしますので、時々、針ブラシでゴミを払ってください。（レコードをおかけになる前に、かならずレコードクリーナーでレコードを清掃してから演奏なさると針先のゴミも少なくなります）

- プレーヤーは、特にホコリを嫌いますので、ご使用にならない場合は、必ずダストカバーをしてください。

- ヘッドシェルとアームとの接点、出力コードのアンプ側とプレーヤー側の接点は、接触不良を起しやすい所です。時々アルコールか四塩化炭素でふいてください。

- DD-8は特殊オイルの使用により、注油の必要はありません。もし他のオイルを注油されますと、故障の原因になります。（尚、モーターに異常が認められた場合は、当社サービス課までご連絡ください）

● 規 格

■ 規 格

● フォノモーター

駆動方式……………ダイレクトドライブ
モーター……………クォーツロック PLL DC サーボ
モーター
回転数……………33 $\frac{1}{3}$ 、45rpm
ターンテーブル……………直径35cm、重量2.6kg
（アルミダイキャスト製）
慣性モーメント……………600kg・cm²
S N比……………62dB(JIS)以上
回転ムラ……………0.02%(WRMS)以下
起動トルク……………1,500g・cm
消費電力……………5W AC 100V

● トーンアーム

型式……………ダイナミックバランス型
有効長……………237mm
オーバーハング……………15mm
オフセットアングル…21°
最大トラッキングエラー…1.5°以下
適合カートリッジ自重…4～10g(別売サブウェイトで
オルトフォンSPU-G取付可能)
針圧調整範囲……………0～3g
外形寸法……………510(W)×410(D)×175(H)mm
重量……………15kg

※規格及びデザインの一部については、予告なく変更する場合があります。



本社(サービス室)／東京都板橋区富士見町19-19 TEL03(962)8991(962)4621 ☎174
大阪営業所(サービス室)／大阪市浪速区日本橋筋5-1-2 幸ビル TEL06(641)4228(631)6958 ☎556
名古屋営業所(サービス室)／名古屋市中区丸の内1-8-8 牧村ビル TEL052(211)1951~2 ☎460